

第 3 回

ひょうごユース ecoフォーラム

開催報告書

日時：令和3年12月22日（水）13：00～16：00
会場：姫路市文化コンベンションセンター（アクリエひめじ）

絵：兵庫県立兵庫工業高等学校2年 前中夕奈

<目次>

(頁)

I 第3回ひょうごユースecoフォーラム 概要	1
II 開催結果	
1 オープニング	2
2 学生企画	
(1) 学生企画一覧	2
(2) 学生企画内容の紹介	2
3 口頭発表	
(1) 口頭発表一覧	4
(2) 口頭発表内容の紹介	4
4 ポスター展示	
(1) ポスター展示一覧	7
(2) ポスター展示内容の紹介	8
5 生活協同組合コープこうべ「ワカモノ応援プロジェクト」の紹介	24
6 グループディスカッション	
(1) 概要	25
(2) ディスカッション結果	26
(3) 講評	32
7 クロージング	33
III 学生企画委員の紹介	
1 学生企画委員一覧	34
2 学生企画委員感想	35

I 第3回ひょうごユースecoフォーラム概要

1 目的

若者世代による環境活動の活性化を通して将来社会の担い手を育成するため、高校生・大学生の10名の学生企画委員の企画・運営等への参画のもと「第3回ひょうごユースecoフォーラム」を開催した。

本フォーラムが、ご参加いただいた皆さまの活動活性化に寄与するとともに、将来世代に“恵み豊かなふるさとひょうご”をつないでいく契機となることを期待する。

2 内容

- (1) 日時 令和3年12月22日(水) 13:00~16:00
- (2) 場所 姫路市文化コンベンションセンター(アクリエひめじ)
- (3) テーマ ひょうごの里山里海を守り育てる
~コロナ禍の先にある暮らし方~
- (4) 参加者 193名
- (5) スケジュール

- (12:30~13:00) (ポスター展示観覧)
- 13:00~13:25 オープニング
 - ・挨拶(中瀬 勲
兵庫県立人と自然の博物館 館長/兵庫県立淡路景観園芸学校 学長)
 - ・学生企画委員による発表
- 13:25~14:10 口頭発表
- 14:10~14:15 生活協同組合コープこうべ「ワカモノ応援プロジェクト」説明
- 14:25~15:55 グループディスカッション
- 15:55~16:00 クロージング
 - ・挨拶(遠藤 英二 兵庫県環境部長)
- (16:00~16:30) (ポスター展示観覧)



会場：姫路市文化コンベンションセンター

※ 13:00~16:00はオンライン配信を実施

3 主催等

主催：兵庫県、公益財団法人ひょうご環境創造協会

協力：兵庫県立人と自然の博物館、兵庫県立淡路景観園芸学校

【総合コーディネーター】



中瀬 勲

兵庫県立人と自然の博物館 館長
兵庫県立淡路景観園芸学校 学長

【グループディスカッションコーディネーター】



嶽山 洋志

兵庫県立大学大学院緑環境景観
マネジメント研究科 准教授

II 開催結果

1 オープニング

挨拶（中瀬 勲 兵庫県立人と自然の博物館 館長／兵庫県立淡路景観園芸学校 学長）

複雑化、多様化する環境問題の解決には一人一人の行動や、人と人、地域と地域を繋ぐネットワークをどう構築していくかが非常に大切となる。そのネットワークで地球温暖化問題、石油問題、海洋プラスチック問題、生物多様性など、山、川、海までの様々な問題を解決したいと考え、当フォーラムを開催している。

今年度も10名の高校生・大学生がオンライン会議等を通じて開催準備を行ってくれた。世界的にみても環境問題は若者がリーダーシップを取っている。日本でも、ここ兵庫から若者の活動をどんどん広げていこう。

そして、本日の主役はここにお集まりの皆さま。参加者の約半分が中・高・大学生の若者であるが、各テーブルでは遠慮なく発言し、先輩方と活発な議論をしていただきたい。



2 学生企画

(1) 学生企画一覧

学生企画委員の10名の高校生・大学生が環境をよくするために自分達に何ができるかアイデアを出し合い、3企画を実施。

No.	企画名称	メンバー
①	おうちで育てる観葉植物	辻本 楓、塩濱 聡子（甲南女子大学） 今岡 紗碧、前中 夕奈（県立兵庫工業高等学校）
②	ごみから作るエコツリー	駒倉 璃弥、小原 樹聖（県立農業高等学校） 井住 啓大、神岡 宏輔（滝川高等学校） 藤居 晃斗、中村 真人（吉備国際大学）
③	リユースショップの活用法	今岡 紗碧、前中 夕奈（県立兵庫工業高等学校） 駒倉 璃弥、小原 樹聖（県立農業高等学校） 井住 啓大、神岡 宏輔（滝川高等学校） 藤居 晃斗、中村 真人（吉備国際大学） 辻本 楓、塩濱 聡子（甲南女子大学）

(2) 学生企画内容の紹介

① おうちで育てる観葉植物

観葉植物を育てることによって、どのような効果が得られるのかについて、ポスター展示を通してお伝えしたい。身近に植物を置く楽しみに加え、植物について興味を持ち、庭、公園、地域環境といった行動の輪が広がることで環境保護活動の一歩になることを願う。



② ごみから作るエコツリー

海岸ごみの現状を知るため淡路島海岸に流れ着いたごみを拾いに行き、その成果報告の一つとして拾ったごみでツリーを制作した。

海岸には様々なごみが落ちていたが、その中でも特に多かったペットボトル、発泡スチロール、ビニール袋をメインにしたツリーを展示した。



③ リユースショップの活用法

リユースショップとは不用品を買い取り販売しているお店のことを言い、リユースとは一度使った物をごみにしないで何度も使うことを言う。リユースショップに販売できる物でもすぐに捨ててしまう方も多く、それらを無駄にしないために兵庫県内のリユースショップについて調べ、また、実際に利用した結果や感想をまとめ展示した。

兵庫県内には、ゲオ、ブックオフ、大黒屋、セカンドストリートなど数多くのリユースショップがあり、それぞれに買取・販売している商品は異なるが、大抵のものは引き取ってもらえる。

また、実際にリユースショップに物を売ってみたところ、複雑な手続きも不要でスムーズな取引ができた。査定までの待ち時間で店内の商品を見ることができるようのも実店舗型リユースショップの強みであると感じた。



3 口頭発表

(1) 口頭発表一覧

環境活動に取り組む5グループ（7団体）の次世代の担い手たちが活動発表を行った。

No.	発表団体	発表テーマ
①	(一社) ブナを植える会	豊かな自然の復元を願って
	甲南女子大学 シグマソサエティ部	
	滝川中学校・高等学校 インターアクトクラブ	
②	兵庫県立相生高等学校 自然科学コース	相生高校の鹿まっふ ～シカの糞から探る行動範囲～
③	兵庫県立淡路景観園芸学校 SDGs推進チーム	SDGsに取り組む私たちが考える「エス・ディー・ ジーズ」とは
④	関西学院大学 CAMP×US (キャンプ・アス)	『ペットボトル削減エコシステム』 始動！ ～学生×大学×企業による新たな取り組みでみんなをHAPPYに～
⑤	兵庫県地球温暖化防止活動学生推進員	地球温暖化防止活動を広めるために ～学生推進員発足しました！～

(2) 口頭発表内容の紹介

- ① <発表団体> ① (一社) ブナを植える会
② 甲南女子大学 シグマソサエティ部
③ 滝川中学校・高等学校 インターアクトクラブ
<発表テーマ> 豊かな自然の復元を願って

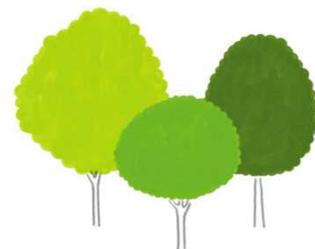


(一社) ブナを植える会、甲南女子大学シグマソサエティ部、滝川中学校・高等学校インターアクトクラブでは、森林整備・保護活動に共同で取り組んでいる。

(一社) ブナを植える会では41年前からブナ等の植樹活動を開始。環境学習の実施に力を注ぐとともに、植樹した後の木々の草刈り等の整備にも多くの時間を費やし木々の成長を見守っている。

甲南女子大学シグマソサエティ部ではブナの生育支援や次世代に向けた森林の環境づくりなどを実施。当たり前にある緑を次の世代に引き継ぐ重要性を感じ、日々の活動に精力的に取り組んでいる。

滝川中学校・高等学校インターアクトクラブでは、森、川、里、海のバランスにより保たれている豊かな生態系を守るため、ブナの植林、里山再生、無農薬のアイガモ農法による米作り、漂着物回収活動、わかめ漁に取り組んでいる。



② <発表団体> 兵庫県立相生高等学校 自然科学コース

<発表テーマ> 相生高校の鹿まっぷ ～シカの糞から探る行動範囲～

現在、兵庫県内全域でシカが発見され、農林業や森林生態系に被害が出ている。相生高校では校舎の東側、西側、北側が山で囲まれており、校内でシカ（ニホンジカ）の糞をよく発見していたことから探求テーマを「シカ」に定め、糞の分布調査や質量の測定等によりシカの行動範囲を調査した。

この結果、植物の多い中庭への出現が多いこと、一番山に近い北側から校舎への侵入が多いことを考察。

今後はシカの糞に含まれている種子の調査等も行っていく予定である。



③ <発表団体> 兵庫県立淡路景観園芸学校 SDGs推進チーム

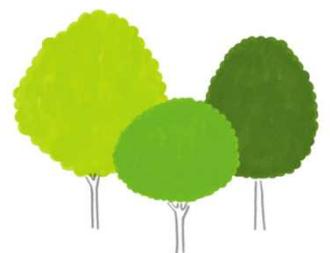
<発表テーマ> SDGsに取り組む私たちが考える「エス・ディー・ジーズ」とは



淡路景観園芸学校は日本で唯一の景観園芸の専門職大学院であり、里山や棚田の景観、環境の保全、庭や公園のデザイン、緑環境の視点からの街づくりなどを学ぶ学校である。

また、SDGs推進チームを結成し、授業や研究とは別に様々な活動を行っている。このチームには8個の部活がありSDGs達成に向け活動している。例えば竹部では放置竹林の課題解決に向け、地域の人々から竹細工を学んだり竹のワークショップを開催するなど竹の活用法を検討している。

このような活動が他の部活動と連携し発展する度に様々な視点から社会問題にアプローチすることをSDGsの視点を通して学んできた。私たちはSDGsとは活動のヒント・指標になるものであると考える。



④ <発表団体> 関西学院大学 CAMP×US (キャンプ・アス)

<発表テーマ> 『ペットボトル削減エコシステム』 始動！
～学生×大学×企業による新たな取り組みでみんなをHAPPYに～

関西学院大学KSC（神戸三田キャンパス）で排出されるペットボトルは年間27万本。一人当たりで換算すると45本。

学生20人の参画のもと、年間10万本のペットボトルの削減を目指し大学、企業と連携した日本初の「ペットボトル削減エコシステム」を開始し、アウトドア用品メーカーのsnowpeakと共同でKSC限定のオリジナルマイボトルを開発した。

このマイボトルをキャンパス内のBiZCAFE（ビズカフェ）に持参すると学生はドリンクを無料で飲めるほか、このCAFEは学生と企業とのマッチングの場となっており、ビジネスマインドの習得、環境問題やSDGsなどを学べる場にもなっている。

また、マイボトル運動を促進するためプロモーション動画も作成し啓発を行ってきた結果、コロナ禍でも学生のマイボトル所持率43%、ペットボトル年間予想削減数93,702本を達成する見込みとなった。



⑤ <発表団体> 兵庫県地球温暖化防止活動学生推進員

<発表テーマ> 地球温暖化防止活動を広めるために ～学生推進員発足しました！～



地球温暖化防止活動学生推進員は、地球温暖化防止活動について学生ならではの視点で異世代に啓発することを目的に、様々な活動取材、体験、発信するため県知事の委嘱を受け2021年9月に県内に在籍する大学生7名で発足。

多くの人に地球温暖化問題に興味・関心を持ってもらい、一人一人の意識を高めることで持続可能な社会の実現を目指し活動していく。

最初の活動として、県立神戸商業高等学校を訪問し、共同で神戸市西舞子海岸に漂着した海岸ごみの回収を行い、漂着ルートやマイクロプラスチックの問題に

ついて学び、また、神戸市環境局のエコ活動「ステンスワンプロギング」にも参加しごみ拾いを行った。

今後は他団体とのコラボや企業訪問、イベント開催を通じ一人でも多くの人に地球温暖化問題について伝えていきたい。

4 ポスター展示

(1) ポスター展示一覧

参加49団体の魅力あふれる環境活動をポスター展示にて紹介。

◆ 口頭発表団体（7団体）

①	（一社）ブナを植える会	⑤	兵庫県立淡路景観園芸学校 SDGs推進チーム
②	甲南女子大学 シグマソサエティ部	⑥	関西学院大学 CAMP×US（キャンプ・アス）
③	滝川中学校・高等学校 インターアクトクラブ	⑦	兵庫県地球温暖化防止活動学生推進員
④	兵庫県立相生高等学校 自然科学コース		

◆ ポスター展示団体（42団体）

①	認定こども園 七松幼稚園	②②	海と空の約束プロジェクト
②	西宮市立山口中学校 モリアオガエル保存会	②③	加古川の里山・ギフチョウ・ネット
③	淳心学院中学校・高等学校 生物部	②④	グループ めだか
④	カナディアンアカデミィ エコクラブ	②⑤	地球環境と産業化研究会
⑤	兵庫県立御影高等学校 環境科学部	②⑥	はりま里山クラブ
⑥	兵庫県立神戸商業高等学校 理科学研究部×生徒会	②⑦	NPO法人はりま里山研究所
⑦	兵庫県立尼崎小田高等学校 サイエンスリサーチ科	②⑧	兵庫医科大学 エコチル調査兵庫ユニットセンター
⑧	兵庫県立明石北高等学校 生物部	②⑨	ひょうご環境保全連絡会
⑨	兵庫県立北条高等学校 人間創造コース ECOチャレンジ班	③⑩	兵庫県森林ボランティア団体連絡協議会
⑩	兵庫県立三木北高等学校 総合科学環境研究部	③①	兵庫県地球温暖化防止活動推進員 温暖化防止こうべネット
⑪	兵庫県立農業高等学校 アライグマ生態調査	③②	的形ふるさと里山会
⑫	兵庫県立農業高等学校 生物工学科 キノコ栽培チーム	③③	武庫川づくりと流域連携を進める会
⑬	兵庫県立香寺高等学校 自然科学部	③④	(株)カネカ
⑭	兵庫県立香寺高等学校 ため池探究チーム	③⑤	生活協同組合コープこうべ 環境推進
⑮	兵庫県立龍野高等学校 課題研究 生物多様性班	③⑥	生活協同組合コープこうべ 地域活動推進部
⑯	兵庫県立大学附属高等学校 自然科学部 生物班	③⑦	ダイハツ工業（株）
⑰	神戸山手女子高等学校（仮）カメラ部	③⑧	国立淡路青少年交流の家
⑱	兵庫県立森林大学校	③⑨	ひょうごエコロコプロジェクト
⑲	神戸女学院大学 人間科学部環境・バイオサイエンス学科横田研究室	④⑩	ひょうご高校生 環境・未来リーダー育成プロジェクト
⑳	相生湾自然再生学習会議	④①	但馬イヌワシ・エイドプロジェクト
㉑	あびき湿原保存会	④②	ひょうご環境体験館

(2) ポスター展示内容の紹介

① (一社) ブナを植える会



創立41年目の自然保護団体です。ブナを植える会は、豊かな自然の復元を願って活動を続けています。

活動地は但馬地方と六甲山地です。児童や生徒に環境学習を行っています。

更に共同作業者と共に活動しています。

② 甲南女子大学 シグマソサエティ部

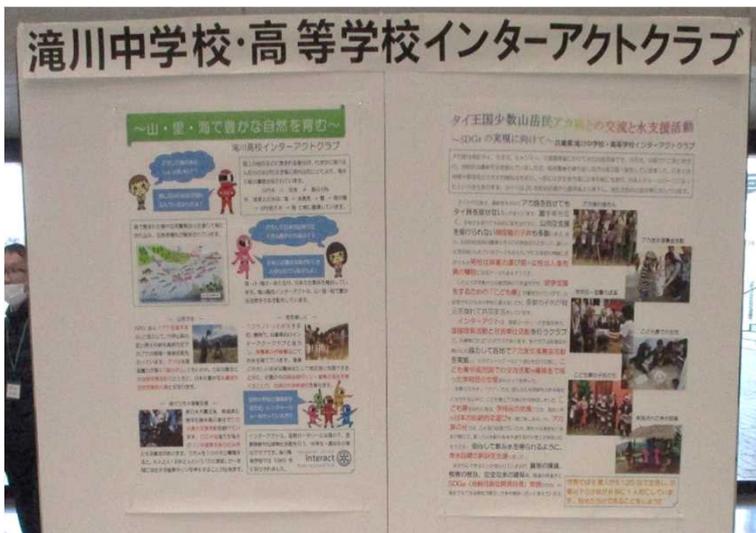


甲南女子大学シグマソサエティ部では、ボランティア活動を行なっており、主に植林活動やキャンプのお手伝いを行なっています。

毎年の大学祭ではバザーを出店しています。コロナ禍により活動は制限されていますが、多くの自然と触れ合う活動に参加することが出来ました。

今年も多くの団体様のご支援を受け、様々な方とかがわることができ、自然に対しての知見を深めることができました。

③ 滝川中学校・高等学校 インターアクトクラブ



どうして海の水はしょっぱいの？それは、川が海にながれこんでいるからです。

どうして日本の沿岸でたくさん魚がとれるの？それは、日本には豊かな森がたくさん守られているからです。

一見関係なく思える森・川・海ですが、それらは一体となって、日本の豊かな生態系を維持しています。

滝川高校インターアクトは、山・里・海で豊かな自然を守る活動をしています。

④ 兵庫県立相生高等学校 自然科学コース



兵庫県立相生高等学校自然科学コースでは、2年生で探究活動に取り組んでいます。今年度は6グループに分かれて活動しており、幾何学・プログラミング・動物の生態・生物の培養・乳化作用など、多岐にわたるテーマで研究を続けています。

また、最先端の研究施設見学や海洋生物実習・天体観測などの宿泊研修や大学の研究室訪問、特別講義など、多くの実習を経験し、自然科学に関する専門性を高める取組を日々実践しています。

⑤ 兵庫県立淡路景観園芸学校 SDGs推進チーム



兵庫県立淡路景観園芸学校の学生と教職員、約25名がSDGs推進チームに所属しており、8つの部が現在活動しています。

学校がある淡路島を舞台に、「身近なことからできるSDGs」や「この行動も未来のためかも？」ということを日々模索しています。少しずつ地域の方と一緒に活動する機会も増えてきました。

「SDGs通信」という冊子を発行しており、どんなことをしているのか紹介・配布しています。

⑥ 関西学院大学 CAMP×US (キャンプ・アス)



関西学院大学神戸三田キャンパスでは、「無理なく始められる環境保護」で年間27万本排出されるペットボトルを10万本削減します。

アウトドア用品メーカーのスノーピークと共同開発したオリジナルマイボトルは、神戸三田キャンパスの学生限定で、このボトルを購入し、キャンパス内にある「BiZCAFE」に持参すると、在学期間中のドリンクが無料になり、ペットボトル飲料を購入する機会を減らし、持続可能な社会に貢献します。

⑦ 兵庫県地球温暖化防止活動学生推進員



地球温暖化防止活動について、学生ならではの視点で啓発していくことを目的に、2021年9月に発足したばかりの学生グループです。

県内各大学に在籍する学生7名で構成されており、様々な取組について取材・体験・発信していく予定です。第1回目の活動として、海洋プラスチックゴミを調査している神戸商業高校理科研究部に訪問し、神戸市主催のゴミ拾いイベントにも参加してきました。

SNSアカウントのフォローよろしくお願いします。

① 認定こども園 七松幼稚園



尼崎市にある0歳から5歳の子供を預かる認定こども園七松幼稚園のSDGsに関する発表です。

この園の教職員に対して、園における教育活動でSDGsを意識している活動と、意識しにくい活動について、アンケート調査を行いました。その上で、どのようなSDGsを意識した教育を行いやすく、どのようなSDGsを意識した教育が行いにくいのかを発表します。

またSDGsを意識できるように、どのように試行錯誤しているかを発表しています。

② 西宮市立山口中学校 モリアオガエル保存会



絶滅危惧種である「モリアオガエルの保護増殖活動」を理科部より受け継ぎ、今年で53年目の活動をしています。

ポスターでは、5月のボランティア結成から6月の卵塊採集と飼育の様子、そして7月の放池までの様子や、これまでに分かったモリアオガエルの面白い生態について紹介しています。

生徒がボランティアとして地域の自然を守り、豊かな森を継承していくため、調査・啓発活動など様々な活動を行っています。

③ 淳心学院中学校・高等学校 生物部



姫路城の中堀には土塁があり、その土塁は淳心学院の敷地にも含まれています。

本ポスターではこの土塁の植生を、樹木を中心に調査しました。

また、この土塁の植生調査は2012年にも行われており、その時のデータとの比較も行い、9年間の変化とこれからの土塁の植生を考えています。

④ カネディアンアカデミー エコクラブ



カナディアンアカデミーの中学部エコクラブの活動の様子を紹介しています。

どのようにすれば中高生にエコについて関心を持ってもらえるかについて、いつも話し合っており、そのアイデアも展示しています。

例えば、エコに関する意識を高めてもらうためのアースウィークというイベントやエコに関するクイズ大会を企画運営しました。その様子を紹介しています。

⑤ 兵庫県立御影高等学校 環境科学部



私たち御影高校環境科学部は、通称「キノコ部」とよばれ、日本で唯一のキノコに特化した部活動です。

毎月第3日曜日は神戸市の六甲山再度公園のキノコの調査を兵庫きのこ研究会と合同で行っています。そして標本展示や研究発表を県内外の様々な場所で行い、キノコの多様性を通じた生物多様性の啓発活動を行っています。

昨年度は多くの展示会が、新型コロナウイルスの影響で中止となりました。そのため、今年度はYoutubeに「御影キノコ部チャンネル」を作製したり、TwitterやInstagramなどによる啓発活動に力を入れています。ぜひチャンネル登録やフォローをお願いします。

⑥ 兵庫県立神戸商業高等学校 理科研究部×生徒会

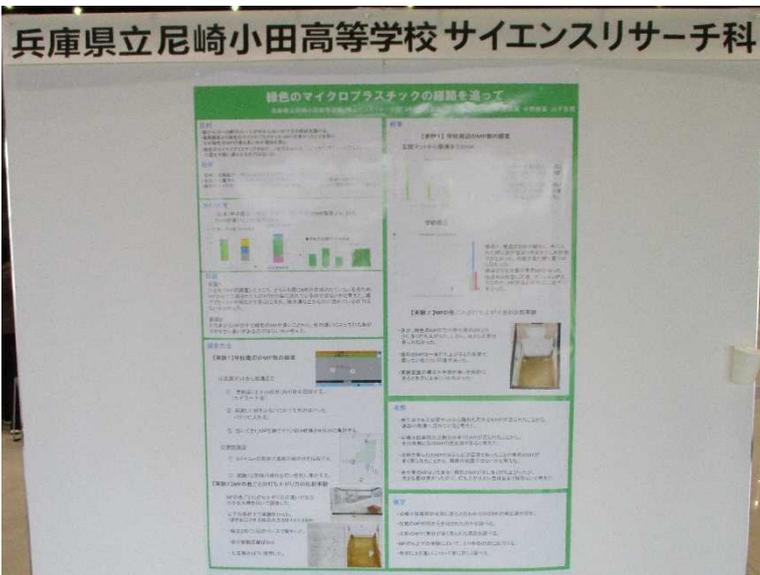


海に流出するプラスチックごみの問題は深刻です。理科研究部は2013年から漂着ごみの回収と調査研究の発表を通して、海ごみ問題に取り組んできました。

現在は他校や地元自治会と連携した海洋ごみの回収、環境問題についての学習、企業や行政と連携した海洋ごみ削減への啓発活動に発展しています。

また、生徒会は校内でのマイバック運動、エコキャップ回収、古紙回収を推進するだけでなく、理科研究部と地元の海岸清掃に参加しています。

⑦ 兵庫県立尼崎小田高等学校 サイエンスリサーチ科

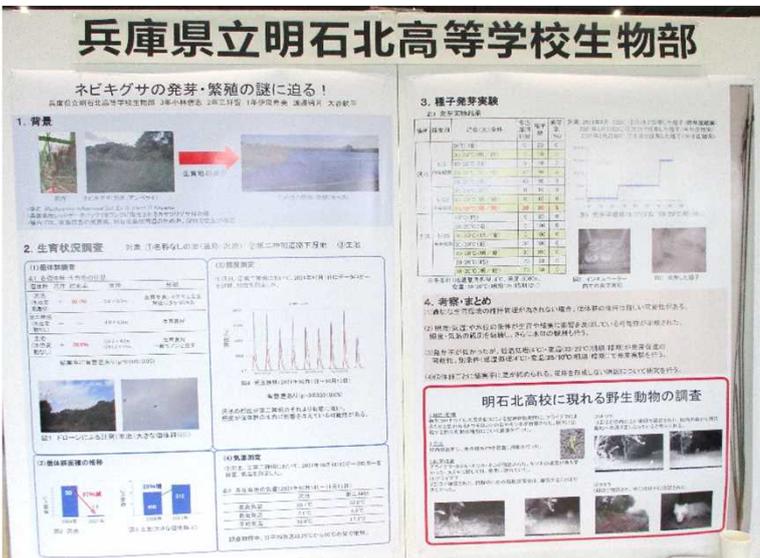


これまでのマイクロプラスチック調査で緑色の硬質プラスチックが圧倒的に多く回収されました。

なぜ緑色のものが多いのかその原因が分かればマイクロプラスチックを減らすヒントが得られると思います、研究を行いました。調査結果から、緑色のマイクロプラスチックは、海、川でもすでに存在し、その供給源は陸にあると仮定しました。

陸でできた緑色のマイクロプラスチックがどのように流れていくのか、調査に基づき考えました。

⑧ 兵庫県立明石北高等学校 生物部

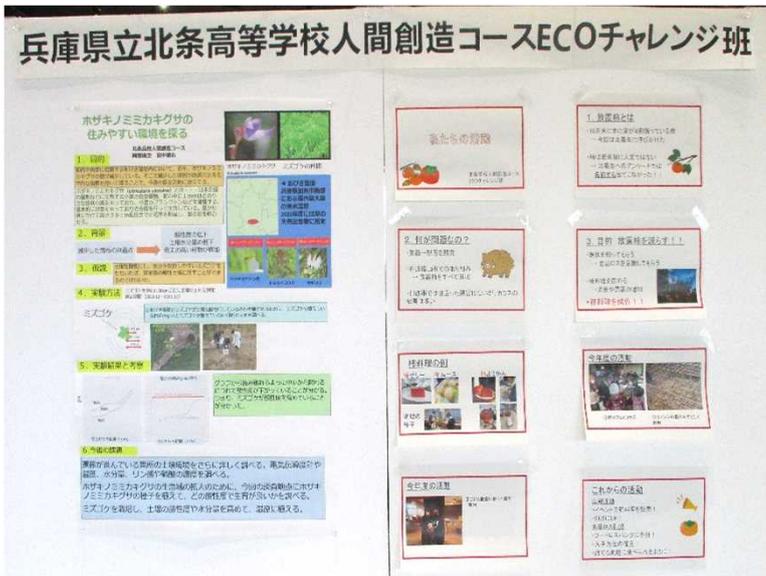


明石北高校生物部では、兵庫県で明石大久保・姫路家島の2か所のみで生育が確認されている「ネビキグサ」の繁殖生態学的研究を行っています。

今回のポスターでは、護岸工事や住宅地開発などネビキグサが置かれている環境や明石北高等学校 生物部が行っている発芽実験の様子などを紹介しています。

また、学校周辺のアライグマやウシガエル等の外来種問題にも取り組んでいる様子を紹介します。

⑨ 兵庫県立北条高等学校 人間創造コース ECOチャレンジ班



兵庫県加西市にある県内最大級のあじき湿原の保全に取り組んできました。

部活動の取組や人間創造コースの授業における探究活動にも取組を広げ、地域の保存会や研究機関と連携しながら、草刈りや木道づくり、湿原に生息する絶滅危惧種や希少種の観察、植生の調査等を行ってきました。

保存会の方々の高齢化により、保全活動の継続が困難になってきています。そこで、あじき湿原の保全活動と広報活動を現在両輪で行っています。

⑩ 兵庫県立三木北高等学校 総合科学環境研究部



環境教育の活動の一環として、校内の未使用の花壇に二酸化炭素の吸収量が常緑広葉樹の4倍と言われるケナフを育てています。

その際、もう一つの活動である「チリメンモンスター出張講義」で廃棄されるチリメンジャコを譲り受け、肥料の一部に利用しています。廃棄される学校のカーテンを素材に布袋を作り、ケナフの樹皮や花で染色し、貸出エコバッグとしてスーパーに提供しています。

ケナフの芯は炭に焼いて病院や福祉施設等に配布を行っています。

⑪ 兵庫県立農業高等学校 アライグマ生態調査



現在、兵庫県では東部を中心にアライグマの被害が全域に拡大しています。

40年程前に日本に持ち込まれたアライグマは、生態の解明や対策が確立されていないため、農家への食害被害や在来種への影響が懸念されています。年ごとに数を増やしており、一年に50頭以上の捕獲を実現しなければ現状維持さえも困難な状況です。

将来、奪うことになる命を少しでも減らすためにも、捕獲、生態の解明に注力しました。

⑫ 兵庫県立農業高等学校 生物工学科 キノコ栽培チーム



県農生物工学科キノコ栽培チームでは、東播工業高校の木材加工により発生したおがくずを利用してキノコの菌床栽培を行っています。

おがくずだけではなく、校内で発生する植物性のバイオマス資源からも広くキノコの菌床栽培が可能かどうかを検証し、菌床栽培の可能性について調べていこうと考えています。

さらに、使用後の菌床のたい肥化についても研究を行っています。

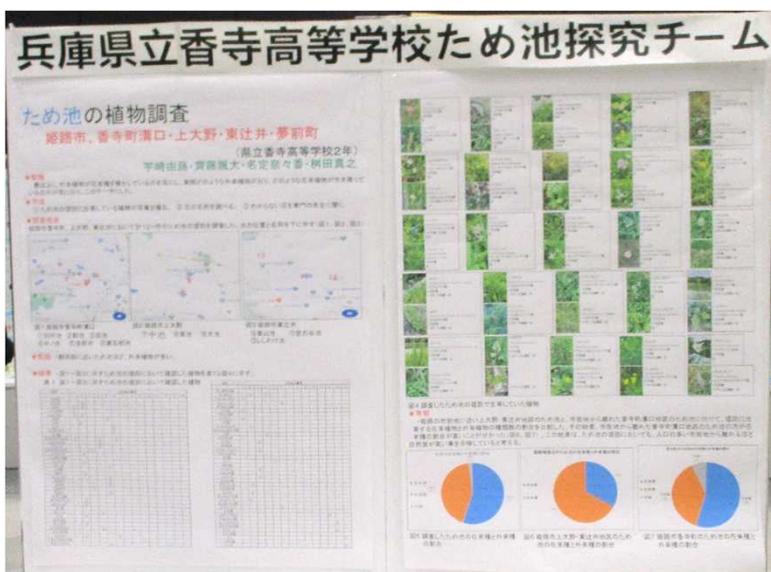
⑬ 兵庫県立香寺高等学校 自然科学部



広報誌「ため池の自然」をポスターにして紹介します。

さらに、ため池観察会の様子と、そこで配布した冊子の内容を写真で紹介します。

⑭ 兵庫県立香寺高等学校 ため池探究チーム

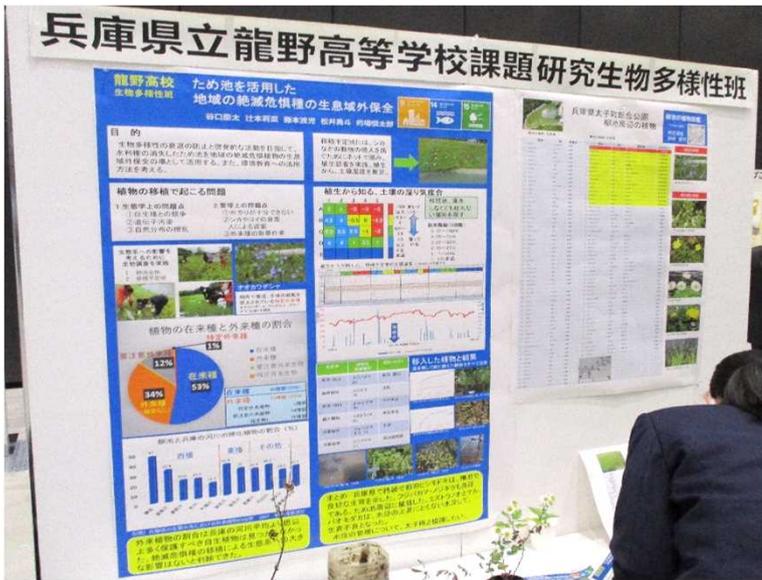


兵庫県立香寺高等学校2年生の探究活動の授業で、姫路市香寺町と神崎郡福崎町のため池に生育する草本植物の分布と、姫路市夢前町の、ため池の水中に生育する植物を調査した結果を紹介しています。

ため池の堤防には日本在来の日当たりのよい草原の植物が生育しており、水中には湿地や沼に生育していた植物が生き残っています。

香寺高校では5年前からため池の生物を調べていますが、今年は特に堤防の植物を調査しました。

⑮ 兵庫県立龍野高等学校 課題研究 生物多様性班



龍野高校では、授業の課題研究生物多様性班や自然科学部が中心となり、「生物多様性龍高プラン」を実施しています。

主に、まもる活動、しらべる活動、つながる活動、伝える活動に取り組んでいます。他の団体と連携し、地域の生物の調査や保全だけでなく、子どもたちに自然や生きものに興味関心を育むために科学イベントに出展しています。

この取組みは、「ひょうごの生物多様性保全プロジェクト」に認定していただきました。

⑯ 兵庫県立大学附属高等学校 自然科学部 生物班



生物班の活動を紹介します。

ナガレホトケドジョウの移動について調査しています。個体識別のために行う腹部の「白色線」写真撮影を、ドジョウの負担が少ない方法に改良しています。

また、屋上で、植物の栽培と水生動物の飼育をしています。押し花、押し葉も作成しています。

さらに、透明樹脂標本の作成、生物室での動物飼育、水生動物や昆虫の採取もしています。

⑰ 神戸山手女子高等学校 (仮)カメラ部



活動開始当時は、本校の写真部員が多く、また、写真部以外の生徒も活動に参加していました。その時、ある先輩が「カメラ部」の名前を考案し、それ以降、仮称・カメラ部を名乗っています。淡水ガメの捕獲調査とミシシippアカミミガメの駆除からはじめ、保全と追跡調査のために神戸市立相楽園で域外飼育を試みています。

また、神戸大学の源利文先生にご指導頂き、環境DNAの抽出と分析にもチャレンジしています。

最近ではコロナ禍により活動が制限されたり、イノシシに邪魔をされたりしていますが、これからも継続して活動していきます。

⑱ 兵庫県立森林大学校



森林大学校は2017年4月、森林林業の担い手を養成する専修学校として宍粟市に開校しました。廃校となった小学校舎を木質化した学舎に、木の香りとともに、定員40名の学生が学んでいます。

地域の自然を丸ごとキャンパスとして、森林の整備と保全や林業の技術、森林セラピーや野生鳥獣被害対策などの専門知識を2年間で幅広く身につけ、将来は森を育てるエキスパートになって活躍することを目指しています。

⑲ 神戸女学院大学 人間科学部環境・バイオサイエンス学科横田研究室



日本に生息するメダカは地域ごとに異なる遺伝的性質を有していますが、近年放流などにより市販のメダカと野生メダカとが交雑し、各地でメダカの遺伝的攪乱が生じています。

当研究室では、兵庫県南部に生息する野生メダカの遺伝子型を調査していますが、今回は姫路市内に生息する野生メダカの調査結果について発表しています。

⑳ 相生湾自然再生学習会議



60年前はカブトガニが生息していた相生湾。沿岸部や干潟が埋められ自然環境が大きく変わってしまった相生湾を自然豊かな里海に蘇らせようと取り組みを始めて20年が経過しました。

藻場・干潟の創出や、天然記念物「シバナ」の保護、水質浄化と悪臭除去の取り組みや漂着物の回収で、相生湾は徐々に生物多様性の豊かな里海に甦りつつあります。

この取り組みを次世代に繋いでいくために小学生、中学生、高校生を巻き込んで活動していきたいと考えています。

㉑ あびき湿原保存会



11月の草花が種を落とした頃に、保全作業として、湿原内の草木を刈り払います。草の株には、昆虫の卵、サナギがついていることがあるので、注意を払いながら行います。この作業により、地面に太陽の光が当たり、新しい芽を出します。

保全活動の基本は、持ち出さない、持ち込まない、踏み込まない、です。湿原内にある同じ花でも、外来種と見なし、持ち込みは禁止するなど、基本を徹底しながら保全活動を行っています。

㉒ 海と空の約束プロジェクト



多様なセクターと協働して、判りやすい環境学習や防災学習を学校・園や社会教育で展開しています。

紙芝居や自然体験学習、グループワークなどプログラムを工夫して行っています。

また、河川や海岸の保全活動団体や大学生サークルの「いきものずかん」などもコラボしています。

紙芝居の貸出や絵本の提供もしていますので、ご相談ください。

㉓ 加古川の里山・ギフチョウ・ネット



「加古川の里山・ギフチョウ・ネット」は絶滅危惧種選定のギフチョウとヒメヒカゲを主として、加古川地域に生息する希少チョウ類がいつまでも元気に飛び交うように、生息地の環境整備などの保全活動を20年以上継続しています。

また、自然保護の大切さを、青少年から一般市民まで広く啓発する努力も続けています。

㊤ グループ めだか



グループ名「めだか」は、童謡「めだかの学校」の歌詞に「だれが生徒か先生か」とあるように互いに切磋琢磨して地球温暖化問題について共に学び合い、身近に出来ることについて皆様方の協力を得て活動しています。

展示品は牛乳パックを使った作品であり、展示パネルは食品ロスの削減の方策について紹介しています。途上国では約8億人以上が十分な量の食べ物が口に出来ず栄養不足で苦しんでいますが、日本では年間600万トン、1日あたりお茶碗1杯分も廃棄されています。

コロナ禍でもあり、各国を問わず自分ごととしてとらえ、自分たちに何が出来るかを考えていきたいと思えます。

㊦ 地球環境と産業化研究会



「2050カーボンニュートラル」の達成には社会の「大転換」が必要であり、それは単なる制度や技術の導入ではなく、日本の未来を切り拓くためのグランドデザインを描くという壮大なものです。

どのような未来を選択するかには、県民一人ひとりが地球温暖化問題を理解し、自分の頭で考え、自分の意見をもつために必要な知識を身につけることが必要です。

将来を担う世代の皆さんと一緒に、教育・啓発活動を行えることを期待しています。

㊧ はりま里山クラブ



令和2年4月、ひょうご環境体験館のサポーター仲間の有志が集まり設立しました。

体験館に来館されるお客様が、施設周辺の自然を利用して生物・野鳥の観察やネイチャーゲーム等子供から大人までみんなが楽しみながら環境学習が行えるよう、遊歩道や周辺の放置林等の整備、環境学習に活用出来る拠点づくりに取り組んでいます。

㉗ NPO法人はりま里山研究所



NPO 法人はりま里山研究所は、里山・里川整備の環境保全活動を行い整備地で1年を通してプレーパークを行っています。プレーパークを行う里山ガーデンでは子どもから青少年まで自然体験や学習会を開催しています。

また、サイエンスカフェや子ども食堂、まちづくりや他団体の支援も行っています。

今日は当団体が活動している分野の紹介を行い、団体同士の相互交流を広げ、今後の活動の参考にしていきたいと考えています。

㉘ 兵庫医科大学 エコチル調査兵庫ユニットセンター



エコチル調査とは、2010年に環境省が始めた大規模かつ長期的な国家プロジェクトです。

エコチル調査は全国15か所の地域にユニットセンターがあり、兵庫ユニットセンターは兵庫医科大学がユニットセンターとして尼崎市と連携しながら平成23年より協力医療機関において調査を開始しました。

お子さんがお母さんのお腹の中にいるときから13歳になるまで、定期的に健康状態を調べて環境要因が子どもたちの成長や発達にどのような影響を与えるのかを明らかにすることが目的です。

㉙ ひょうご環境保全連絡会



瀬戸内海は、東西約450km、南北約15～55kmの日本最大の内海で、美しい景観を有し、漁業資源の宝庫です。

かつて富栄養化が進行し、赤潮などで「瀕死の海」と呼ばれた瀬戸内海も、工場等への排水規制によりきれいになりました。

一方、一部の海域では、イカナゴなどの漁獲量が減少しており、海の貧栄養化が原因の一つだと言われており、兵庫県では、環境基準に加え下限値を定め、規制から管理へと舵を切ろうとしています。

ひょうご環境保全連絡会では、兵庫の環境を保全していくため様々な取組を行っています。

③① 兵庫県森林ボランティア団体連絡協議会



兵庫県下の60団体が加盟している団体です。

活動地は広く県下に広がり、森づくりや自然環境の保全に努めています。

更に、そのフィールドに児童や生徒を迎えて環境学習に努めています。

是非、一度訪ねてください。

③② 兵庫県地球温暖化防止活動推進員 温暖化防止こうべネット



幼児を抱えたお母さん、保育園児から小学生低学年・高学年、高齢者を対象に脱炭酸ガス、省エネ、マイクロプラスチック問題などについて、エコ双六ゲームや魚釣りゲーム等の遊びやゴミの分別収集セミナー等のセミナーを通じて啓発活動をしています。

③③ 的形ふるさと里山会



的形こども園の5歳児を対象にノジグク植付け体験や、小学3年生には新緑の環境体験学習、的形マリンベルトの波打ち際での生き物観察、紅葉の環境体験学習、的形の泊山・磯地区歴史探訪などを行っています。

さらに、ひょうご森の日イベント登山なども行っています。

③③ 武庫川づくりと流域連携を進める会

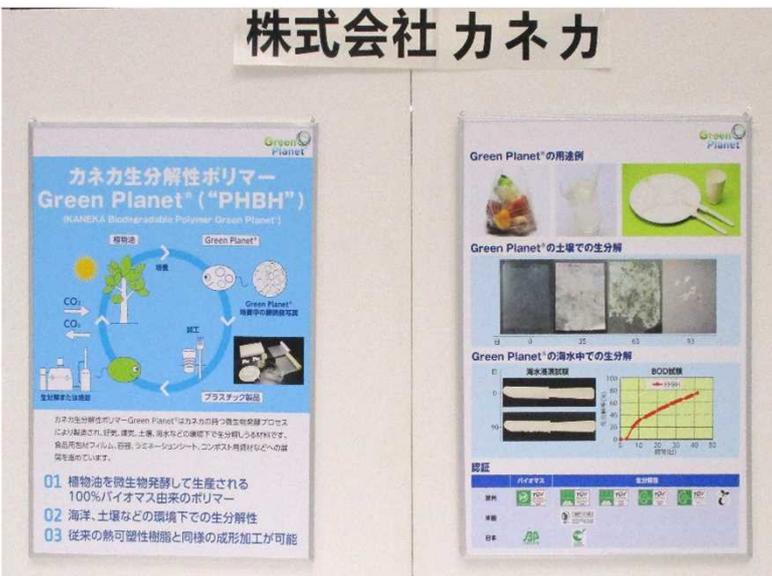


Withコロナ禍で転換を図った活動の様子とその効果を紹介します。

屋内活動ではオンラインを導入、運営会議や協議会では対面会議にZoomを併用しています。

イベントフォーラムではZoomとYouTubeを併用した結果、これまで以上の参加者数と若い世代にも参加者が広がり今なお視聴者は増加中。フィールド活動では登山3密回避を導入し、様々な企画を実施しています。川守活動では個々の居住範疇でコロナ余剰時間に水辺の環境・景観実態調査を実施、調査データの蓄積ができました。

③④ (株)カネカ



カネカ生分解性ポリマーGreen Planetは、カネカの持つ微生物発酵プロセスにより製造され、好気、嫌気、土壌、海水などの環境下で生分解しうる材料です。

食品用包材フィルム、容器、ラミネーションシート、コンポスト用資材などへの展開を進めています。

③⑤ 生活協同組合コープこうべ 環境推進



コープこうべの環境活動のひとつ「フードドライブ」は、ご家庭で使いきれない余剰食品を持ち寄って、食料支援につなげる活動です。コープこうべ全店で常時受付を実施し、食品ロス削減を推進しています。

その他にも店舗で発生した加工くずや廃棄食品を回収・堆肥化し、その堆肥で野菜を育てるエコファームの取り組みを20年以上前から展開しており、食品廃棄物の削減・食品リサイクル率のさらなる向上を目指しています。

③⑥ 生活協同組合コープこうべ 地域活動推進部



コープこうべでは環境への取り組みをはじめ、地域で様々な活動をすすめています。

地域に根差す活動を学生のみなさんとチャレンジする『ワカモノ応援プロジェクト』を立ち上げました。「こんなことでいたらいいなあ…」と思っているアイデアを募集中です。コープこうべが実現を応援します。

③⑦ ダイハツ工業（株）



ダイハツは、持続可能な社会の実現に貢献すべく、積極的にSDGsの達成に向けて努力しています。

例えば、クルマをつくる全ての段階において、環境への負荷を低減し、環境問題の改善に取り組むことで、持続可能な社会を目指しています。

そして、自然共生社会を目指す活動では、兵庫県内では、西宮部品センターでの「地元由来種 コバノ ミツバ ツツジの育成」、多田エンジニアリングセンターでの「川西市天然記念物 エドヒガンの保護・育成」など、地域の皆様と共に活動に取り組んでいます。

③⑧ 国立淡路青少年交流の家



AWAJI未来探検隊では、今後5年間で淡路島の里山から里海をめぐり、様々な原体験を通して、青少年が淡路島の魅力を感じ、淡路島に誇りを持ち、未来の淡路島を創る意思を醸成することを目的としています。

令和3年度は獣害をテーマに、淡路島の豊かな自然や多彩な農業を脅かす野生生物について、地元農家の方や専門の方と対話しながら、獣害対策の見学、ジビエ料理等を通して、自然と共に生きることを探究していきます。

㊸ ひょうごエコロコプロジェクト



県内全ての乳幼児が、一定の専門性をもつ指導者による環境体験を継続的に受けられる体制を構築するため、幼稚園等が実施する環境体験を支援するとともに、乳幼児期における環境体験の機会の増加を目指しています。

㊹ ひょうご高校生 環境・未来リーダー育成プロジェクト



地球温暖化の進行による異常気象や災害の頻発などの環境問題を多角的に捉え、その解決策を考え、実践できる資質を身につけた高校生を育成することを目的に、「ひょうご高校生 環境・未来リーダー育成プロジェクト」を展開しています。

㊺ 但馬イヌワシ・エイドプロジェクト



イヌワシは、兵庫県に「2つがい」しかいません。高校生が大人になった時、県内にイヌワシは生息しているのでしょうか。

コウノトリの二の舞にしないために、今、必要なことがあります。それは「木を切ること」です。

兵庫県立人と自然の博物館では「木こり」を大募集中です。はじめての方や、学生でも参加できます。ご興味のある方、是非、お声がけ下さい。



ひょうご環境体験館は、こどもから大人まで多くの皆様が地球温暖化をはじめとする環境問題について「気づき」「学び」「知る」ことができる施設です。

展示をリニューアルし、マスコット「ひょうゴン」が誕生しました。ぜひお越しください。

5 生活協同組合コープこうべ「ワカモノ応援プロジェクト」の紹介

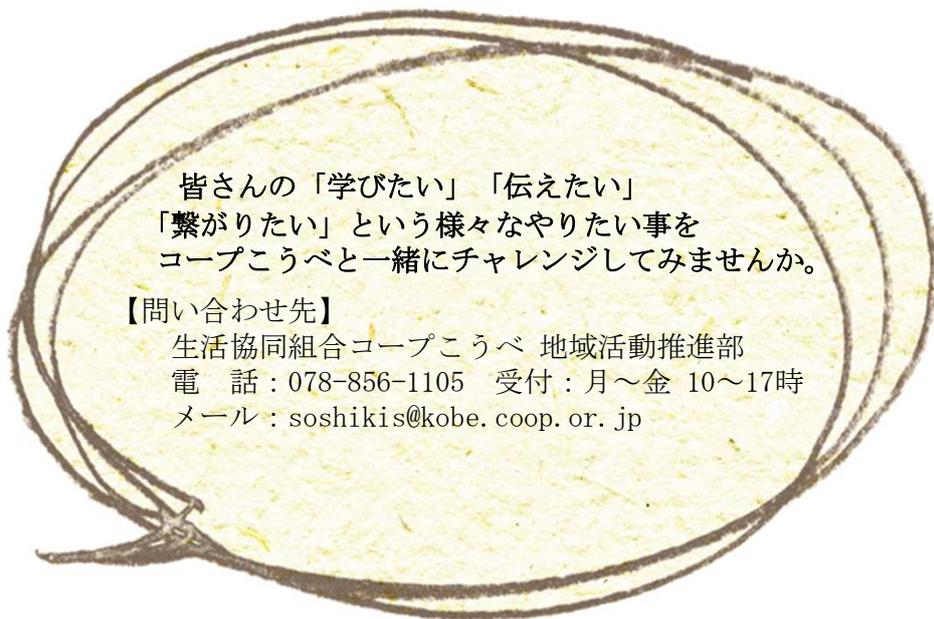


コープこうべは食料品や日用品の販売を行う店舗としての活動以外に、協同組合としてより良い暮らしと地域づくりを目指して様々な分野での組合員、市民活動を進めている。

「KONOYUBI」は学生の皆さんによる地域の課題解決や地域を笑顔にする活動を、コープこうべが応援するプロジェクト。

<応援内容>

- ①店舗スペース等の貸出し
- ②オンライン機材の貸出し
- ③コープこうべ職員による出前講座の開催
- ④その他、コープこうべ広報誌への掲載 など



皆さんの「学びたい」「伝えたい」「繋がりたい」という様々なやりたい事をコープこうべと一緒にチャレンジしてみませんか。

【問い合わせ先】

生活協同組合コープこうべ 地域活動推進部
 電話：078-856-1105 受付：月～金 10～17時
 メール：soshikis@kobe.coop.or.jp

6 グループディスカッション

(1) 概要

“ひょうごの里山里海を守り育てるために”自分たちに何ができるのかを、嶽山洋志コーディネーターの進行のもと、参加者全員が29班に分かれ話し合った。

○テーマ：ひょうごの里山里海を守り育てる ～コロナ禍の先にある暮らし方～

○コーディネーター等

コーディネーター：嶽山 洋志（兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科 准教授）

テーブルファシリテーター：以下29名

1班	大本 晋也/国立淡路青少年交流の家 所長	16班	菅 範昭/兵庫県 農政環境部 環境管理局 局長
2班	稲家 福子/兵庫県 教育委員会事務局 社会教育課 指導主事	17班	高橋 桐子/兵庫県 産業労働部 国際局 国際交流課 主幹
3班	笹原 新吾/兵庫県 教育委員会事務局 教職員課 指導主事兼管理主事	18班	谷田 徳史/兵庫県 教育委員会事務局 義務教育課 指導主事
4班	東 朋子/NPO法人 コミュニティ事業支援ネット 理事長	19班	中野 靖子/兵庫県 農政環境部 環境創造局 自然環境課 主任
5班	有本 晃子/兵庫県 健康福祉部 社会福祉局 地域福祉課 班長	20班	西谷 寛/海と空の約束プロジェクト 代表
6班	安東 靖貴/兵庫県人権啓発協会 次長	21班	橋本 佳延/兵庫県立人と自然の博物館 主任研究員
7班	石丸 京子/兵庫県立尼崎の森中央緑地 生物多様性チーフコーディネーター	22班	人羅 亜矢子/認定NPO法人 CS神戸 生きがいしごとサポートセンター神戸 センター長
8班	今井 ひろこ/NPO法人 たじま海の学校 副代表	23班	平櫛 武/里山サバイバルクラブ
9班	大瀬 祥子/兵庫県立大学 地域創造機構 非常勤研究員	24班	藤原 良光/兵庫県立夢前高等学校 校長
10班	大平 和弘/兵庫県立大学 自然・環境科学研究所 講師	25班	堀田 佳那/公益財団法人 ひょうご環境創造協会 環境技術事業本部 環境調査課
11班	唐津 周平/NPO法人 しゃらく	26班	満月 卓/兵庫県 農政環境部 環境管理局 温暖化対策課 副課長兼班長
12班	隈部 康晴/兵庫県 農政環境部 環境管理局 環境整備課 主査	27班	水野 是清/兵庫県立南但馬自然学校 主任指導主事
13班	上月 さやこ/兵庫県 教育委員会事務局 高校教育課 指導主事	28班	山本 竜一/兵庫県 農政環境部 環境管理局 水大気課 課長
14班	澤田 佳宏/兵庫県立淡路景観園芸学校 准教授	29班	渡辺 真理/NPO法人 あまがさき環境オープンカレッジ 副理事長
15班	新見 満/兵庫県 農政環境部 環境創造局 鳥獣対策課 班長		

(2) ディスカッション結果

○各班のまとめ用紙

<p>【1班】</p> <p><ひょうごの里山里海の課題> <small>③で検討した、「ひょうごの里山里海の課題」について、再度まとめた内容を1つ以上記入してください。</small></p> <p>自然にふれる機会が減った。 ・里山・里海が荒れてしまっている人の手で改善することは可能!! ・担い手の不足</p> <p><課題への対応> <small>「ひょうごの里山里海の課題」について、自らが行動することを1つ以上記入してください。</small></p> <p>“ひょうごの里山里海を守り育てる”ために、私たちは</p> <p>親子で取り組めるイベントを増やす</p> <p>例: 虫い体験、森のカフェ、ものづくり体験</p> <p>をします!!</p>	<p>【2班】</p> <p><ひょうごの里山里海の課題> <small>③で検討した、「ひょうごの里山里海の課題」について、再度まとめた内容を1つ以上記入してください。</small></p> <p>生態系、エコ、ゴミ... 森林、草木の放置、たぐさんありまじ!</p> <p><課題への対応> <small>「ひょうごの里山里海の課題」について、自らが行動することを1つ以上記入してください。</small></p> <p>“ひょうごの里山里海を守り育てる”ために、私たちは</p> <p>・生物調査などを行ってよく知ること。 ・エコバックやマイボトルをもつこと ・SMSで大事さを伝えること をします!!</p>
<p>【3班】</p> <p><ひょうごの里山里海の課題> <small>③で検討した、「ひょうごの里山里海の課題」について、再度まとめた内容を1つ以上記入してください。</small></p> <p>人間にとって便利になりすぎていて 自然を知らない人が多い</p> <p><課題への対応> <small>「ひょうごの里山里海の課題」について、自らが行動することを1つ以上記入してください。</small></p> <p>“ひょうごの里山里海を守り育てる”ために、私たちは</p> <p>自分たちのことばかり考えず、生物を守るよう生活を改め、 自然の大切さを後輩に伝えていきます!</p> <p>をします!!</p>	<p>【4班】</p> <p><ひょうごの里山里海の課題> <small>③で検討した、「ひょうごの里山里海の課題」について、再度まとめた内容を1つ以上記入してください。</small></p> <p>① 海の栄養源が減少している ② 農業の担い手不足(従事者の高齢化) ③ 特定外来生物の増殖</p> <p><課題への対応> <small>「ひょうごの里山里海の課題」について、自らが行動することを1つ以上記入してください。</small></p> <p>“ひょうごの里山里海を守り育てる”ために、私たちは</p> <p>子どもたちにメッセージを発信してもらい、 大人が技術で支える。</p> <p>をします!!</p>
<p>【5班】</p> <p><ひょうごの里山里海の課題> <small>③で検討した、「ひょうごの里山里海の課題」について、再度まとめた内容を1つ以上記入してください。</small></p> <p>関わる人の減少により 環境に対する意識が低下している</p> <p><課題への対応> <small>「ひょうごの里山里海の課題」について、自らが行動することを1つ以上記入してください。</small></p> <p>“ひょうごの里山里海を守り育てる”ために、私たちは</p> <p>世代のつながりを増やし、五感を刺激し、行動を 後押しする。子どもに里山里海のありがたみを伝えること</p> <p>をします!!</p>	<p>【6班】</p> <p><ひょうごの里山里海の課題> <small>③で検討した、「ひょうごの里山里海の課題」について、再度まとめた内容を1つ以上記入してください。</small></p> <p>若い世代には温暖化の実感がない!! 自然と遊ぶ体験がない。</p> <p><課題への対応> <small>「ひょうごの里山里海の課題」について、自らが行動することを1つ以上記入してください。</small></p> <p>“ひょうごの里山里海を守り育てる”ために、私たちは</p> <p>・自然にふれあえる機会を たぐさんつくる</p> <p>をします!!</p>

【7班】

<ひょうごの里山里海の課題>

④で検討した、「ひょうごの里山里海の課題」について、真でまとめた内容を1つ以上記入してください。

教育(学校と家庭と情報から) ⇒ 地域の文化 ⇒
地域の自然を管理 → 恵みもらう
E大事=可る!
サイクル

<課題への対応>

「ひょうごの里山里海の課題」について、自らが行動することを1つ以上記入してください。

“ひょうごの里山里海を守り育てる”ために、私たちは

このことと情報発信

をします!!

【8班】

<ひょうごの里山里海の課題>

④で検討した、「ひょうごの里山里海の課題」について、真でまとめた内容を1つ以上記入してください。

山が荒れかかっている + 管理する人が不足
海の生き物が減っている

<課題への対応>

「ひょうごの里山里海の課題」について、自らが行動することを1つ以上記入してください。

“ひょうごの里山里海を守り育てる”ために、私たちは

自然を大切に 利益が釣り合う活動を
あめ外をたばこにイベントを毎週

をします!!

【9班】

<ひょうごの里山里海の課題>

④で検討した、「ひょうごの里山里海の課題」について、真でまとめた内容を1つ以上記入してください。

ひょうごの里山里海への
関心がうすい

<課題への対応>

「ひょうごの里山里海の課題」について、自らが行動することを1つ以上記入してください。

“ひょうごの里山里海を守り育てる”ために、私たちは

自分の体験を身のお話
で伝える → 養仲間を増やす

をします!!

【10班】

<ひょうごの里山里海の課題>

④で検討した、「ひょうごの里山里海の課題」について、真でまとめた内容を1つ以上記入してください。

海ごみ(10kgのプラスチック、マスク等)が増えている。
暮らしで意識する必要がある
陸と海はつながっている

<課題への対応>

「ひょうごの里山里海の課題」について、自らが行動することを1つ以上記入してください。

“ひょうごの里山里海を守り育てる”ために、私たちは

豊かな海にするために、
人の輪を作り

をします!!

【11班】

<ひょうごの里山里海の課題>

④で検討した、「ひょうごの里山里海の課題」について、真でまとめた内容を1つ以上記入してください。

若い世代の里山里海に対する
関心がうすい

<課題への対応>

「ひょうごの里山里海の課題」について、自らが行動することを1つ以上記入してください。

“ひょうごの里山里海を守り育てる”ために、私たちは

遊び感覚で参加できるイベントを開催

をします!!

【12班】

<ひょうごの里山里海の課題>

④で検討した、「ひょうごの里山里海の課題」について、真でまとめた内容を1つ以上記入してください。

課題を認識していない

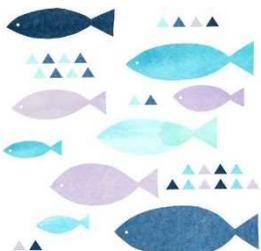
<課題への対応>

「ひょうごの里山里海の課題」について、自らが行動することを1つ以上記入してください。

“ひょうごの里山里海を守り育てる”ために、私たちは

好きにまつわる問題を見つける!

をします!!



【13班】

<ひょうごの里山里海の課題>

③で検討した、「ひょうごの里山里海の課題」について、最でまとめた内容を1つ以上記入してください。

里山、里海が荒れている(維持管理、人手不足)

<課題への対応>

「ひょうごの里山里海の課題」について、自らが行なうことを1つ以上記入してください。

“ひょうごの里山里海を守り育てる”ために、私たちは

多くの人に興味を持ってもらうために、7-7ショップ

イベントの開催、地元団体と連携して促進

をします!!

【14班】

<ひょうごの里山里海の課題>

③で検討した、「ひょうごの里山里海の課題」について、最でまとめた内容を1つ以上記入してください。

昔さかえに自然を使っていた
のスタイル、山、海が荒れている
の地方に人が少なくなり、

<課題への対応>

「ひょうごの里山里海の課題」について、自らが行なうことを1つ以上記入してください。

“ひょうごの里山里海を守り育てる”ために、私たちは
みんな地方に分散してくらし

地方、田舎の魅力を発信

田舎からオンラインで都市の仲間をします!!
ヤキを会合

【15班】

<ひょうごの里山里海の課題>

③で検討した、「ひょうごの里山里海の課題」について、最でまとめた内容を1つ以上記入してください。

生態系を守る(ニホヒ、イナギ、キツネ、コウノトリ)
三カ所、森林保全、工場の廃止
(工場、石池)

<課題への対応>

「ひょうごの里山里海の課題」について、自らが行なうことを1つ以上記入してください。

“ひょうごの里山里海を守り育てる”ために、私たちは

現状を広く知ってもらい、林業を支え

残りの環境を守る(三カ所をくまなく)

活動

をします!!

【16班】

<ひょうごの里山里海の課題>

③で検討した、「ひょうごの里山里海の課題」について、最でまとめた内容を1つ以上記入してください。

もうからない

<課題への対応>

「ひょうごの里山里海の課題」について、自らが行なうことを1つ以上記入してください。

“ひょうごの里山里海を守り育てる”ために、私たちは

PRを(SNSなど)

をします!!

【17班】

<ひょうごの里山里海の課題>

③で検討した、「ひょうごの里山里海の課題」について、最でまとめた内容を1つ以上記入してください。

- ・距離が遠い
- ・里山里海に興味を持っていない
- ・物理的距離が遠い、近くても心理的距離が遠い

<課題への対応>

「ひょうごの里山里海の課題」について、自らが行なうことを1つ以上記入してください。

“ひょうごの里山里海を守り育てる”ために、私たちは

身近な里山の発見、生活の中から見つけること

をします!!

【18班】

<ひょうごの里山里海の課題>

③で検討した、「ひょうごの里山里海の課題」について、最でまとめた内容を1つ以上記入してください。

里山里海を守り育てるための
具体的な目標やめあがりが見えない...
共有がにくい...

<課題への対応>

「ひょうごの里山里海の課題」について、自らが行なうことを1つ以上記入してください。

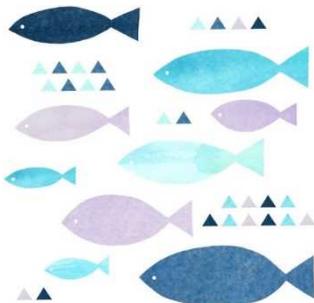
“ひょうごの里山里海を守り育てる”ために、私たちは

！人々と共有、協働！仮-ジョブPR
(ICT)

！一人一人が小さな目標をもって

参加 ちゃんと参加

をします!!



【19班】

<ひょうごの里山里海の課題>

※で検討した、「ひょうごの里山里海の課題」について、題でまとめた内容を1つ以上記入してください。

継続のあるやる気のある若い人手不足

<課題への対応>

「ひょうごの里山里海の課題」について、自らが行動することを1つ以上記入してください。

“ひょうごの里山里海を守り育てる”ために、私たちは

関心を育てる教育

をします!!

【20班】

<ひょうごの里山里海の課題>

※で検討した、「ひょうごの里山里海の課題」について、題でまとめた内容を1つ以上記入してください。

- ・海も森も里地も多いが、十分“管理”できていない。
- ・休まずしたり学びたくても、保全活動等の情報が不十分である。

<課題への対応>

「ひょうごの里山里海の課題」について、自らが行動することを1つ以上記入してください。

“ひょうごの里山里海を守り育てる”ために、私たちは

高校生、大学生から地域のおばさんに里山、里海の魅力を発信し、学ぶ機会を増やす!

山本(勉)、向山(常前)、渡辺(昭)、西谷(昭)

をします!!

【21班】

<ひょうごの里山里海の課題>

※で検討した、「ひょうごの里山里海の課題」について、題でまとめた内容を1つ以上記入してください。

里山里海で「減っている」ほたたりかしになっいる
新しい課題が「増えている」

<課題への対応>

「ひょうごの里山里海の課題」について、自らが行動することを1つ以上記入してください。

“ひょうごの里山里海を守り育てる”ために、私たちは

里山里海の活動を発信して、多くの人の行動をうながす取り組み

をします!!

【22班】

<ひょうごの里山里海の課題>

※で検討した、「ひょうごの里山里海の課題」について、題でまとめた内容を1つ以上記入してください。

野生生物との共存が難しい
マイクロプラスチック問題

<課題への対応>

「ひょうごの里山里海の課題」について、自らが行動することを1つ以上記入してください。

“ひょうごの里山里海を守り育てる”ために、私たちは

- 1.ゴミの分別 徹底
- 2.ポイ捨てしない!!
- 3.食べ残しをしない

をします!!

【23班】

<ひょうごの里山里海の課題>

※で検討した、「ひょうごの里山里海の課題」について、題でまとめた内容を1つ以上記入してください。

活動の衰退 / 10月 祝

<課題への対応>

「ひょうごの里山里海の課題」について、自らが行動することを1つ以上記入してください。

“ひょうごの里山里海を守り育てる”ために、私たちは

学級録とつぎが、価値を伝え、共働き、高齢も確保

をします!!

【24班】

<ひょうごの里山里海の課題>

※で検討した、「ひょうごの里山里海の課題」について、題でまとめた内容を1つ以上記入してください。

里山里海のイメージがない
(共有できていない)

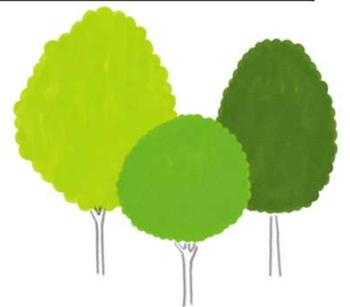
<課題への対応>

「ひょうごの里山里海の課題」について、自らが行動することを1つ以上記入してください。

“ひょうごの里山里海を守り育てる”ために、私たちは

- ・モノリ里山里海をつくる活動をする
- ・モノリ里山里海を理解する教育を実施する
(ゲーム感覚で学ぶ)
(小さい頃から遠足(秋))

をします!!



【25班】

<ひょうごの里山里海の課題>

③で検討した、「ひょうごの里山里海の課題」について、真でまとめた内容を1つ以上記入してください。

- ・学ぶ機会、経験の機会が少なり
- ・人と自然のつばがりがうすい
- ・当事者意識が低い(行動につてない)

<課題への対応>

「ひょうごの里山里海の課題」について、自らが行動することを1つ以上記入してください。

“ひょうごの里山里海を守り育てる”ために、私たちは

自然を守らなくとどうなってしまうか
人に伝える行動

をします!!

【26班】

<ひょうごの里山里海の課題>

③で検討した、「ひょうごの里山里海の課題」について、真でまとめた内容を1つ以上記入してください。

- ・自然豊かだが、活用は少い
- ・自分たちも、もう少し意識高める必要がある
- ・町内網を築きにくい

<課題への対応>

「ひょうごの里山里海の課題」について、自らが行動することを1つ以上記入してください。

“ひょうごの里山里海を守り育てる”ために、私たちは

Webも使って楽しみながらつばがりを作って
仲間を増やして、兵庫の自然を活用

をします!!

【27班】

<ひょうごの里山里海の課題>

③で検討した、「ひょうごの里山里海の課題」について、真でまとめた内容を1つ以上記入してください。

- 里海...ごみ、外来種
- 山...木々を活用できていない
- PR不足

<課題への対応>

「ひょうごの里山里海の課題」について、自らが行動することを1つ以上記入してください。

“ひょうごの里山里海を守り育てる”ために、私たちは

- ・SNSを利用
- ・PRを行う
- ・イベントを行う
- ・VRを活用

をします!!

【28班】

<ひょうごの里山里海の課題>

③で検討した、「ひょうごの里山里海の課題」について、真でまとめた内容を1つ以上記入してください。

- 山、竹の拡大
- ・ボランティア人材
- ・耕作放棄地
- 海、魚獲量の減少
- ・プラスチック問題
- ・海洋問題の情報が少ない
- ・ポイ捨て

<課題への対応>

「ひょうごの里山里海の課題」について、自らが行動することを1つ以上記入してください。

“ひょうごの里山里海を守り育てる”ために、私たちは

他人事だと思わず自身の問題として取り組む。SNS、プラットフォームの作成
による情報発信を行う。ゴミ拾い大会やワークショップを行う。

をします!!

【29班】

<ひょうごの里山里海の課題>

③で検討した、「ひょうごの里山里海の課題」について、真でまとめた内容を1つ以上記入してください。

ポイ捨てゴミ

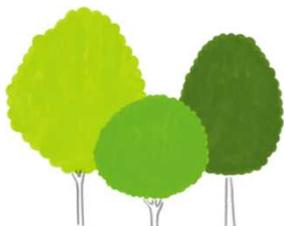
<課題への対応>

「ひょうごの里山里海の課題」について、自らが行動することを1つ以上記入してください。

“ひょうごの里山里海を守り育てる”ために、私たちは

すてない! ひろう!
仲間をふやそう

をします!!



○ 代表10班による発表

- ◆2班： 「生態系」「エコ」「ゴミ」「森林」「草木の放置」などたくさんの課題が挙がり、「ひょうごの里山里海を守り育てる」ために、①SNSで「大事さ」を「伝える」こと、②エコバックやマイボトル持参のようにエコな事をすること、③生物調査を行い生物についてよく知ること、の3点を行うと決めた。
- ◆4班： 3つの課題が出た。
① 海の栄養源が減少している
② 農業の担い手不足
③ 特定外来生物の増殖
これら3つの課題に共通して、「発信し、いろんな人に知ってもらふこと」が非常に大切であるため、「ひょうごの里山里海を守り育てる」ために、子ども達にメッセージを発信してもらい、それを大人が技術で支えると決めた。
- ◆5班： 里山里海に関わる人の減少により環境に対しての意識が低下していることが課題だと考え、「ひょうごの里山里海を守り育てる」ために、世代のつながりを増やし、五感を刺激し、行動を後押しする。子どもに里山里海のありがたみを伝えると決めた。
- ◆7班： “ひょうごの里山里海を守り育てる”ために、里山里海の担い手を育てるための教育をまず大事にし、その教育で培った技術を自然に活かし、その自然から恵みをもたらすというサイクルを大事にすることが重要で、その循環をしっかりと情報発信していくことを決めた。
- ◆13班： 里山に焦点を当てて考えた。里山では、知識や人手不足により管理が行き届かず、自然災害が発生している。様々な人に里山に興味を持ってもらうために広く情報を発信し、ワークショップやイベントへの参加を多種多様な団体と連携して促進することで、“ひょうごの里山里海を守り育てる”と決めた。
- ◆14班： 昔栄えた自然を使う文化が衰退していったことから、山、海が荒れ、その原因として地方に人が少ないことが課題だと考えた。“ひょうごの里山里海を守り育てる”ために、まず、地方に人を呼び込むこと、そのために仕事や事業をオンラインで開催し田舎の魅力を伝えていくことを決めた。更にヤギを飼うことがいいとも考える。
- ◆16班： 「儲からない」事が課題だと考えた。これは、林業では従事者が少なく、実際に産業としての規模が小さいためだと推察した。
“ひょうごの里山里海を守り育てる”ためにSNSなどを使ってPRすると決めた。
まだ具体策は出ていないがPRすることにより、人、情報、お金が集まり産業として規模が大きくなり「規模が小さく儲からないため働き手も少なくなっていく」という負のスパイラルから脱せられると考えた。
また、日本には資源が豊富にあるためその部分をより多くの人に理解してもらふことにより、より良くなると考えた。



◆20班： 里山里海の課題として、①海も森も里地も多いが十分管理できていない、②体験したり学びたくても保全活動等の情報が不十分である、の2点を挙げた。

“ひょうごの里山里海を守り育てる”のために、高校生、大学生から地域の皆さんに里山里海の魅力を発信し、学ぶ機会を増やすと決めた。

実際に高校生が気候変動の講演会活動を行っていることを知った中学生から「一步踏み出す勇気をもらえた」という声もあり、同世代間で伝えることは効果的だと考える。一方、高校生は横の繋がりが希薄なため、大人にはこの人と人を繋ぐ役割を担っていただきたい。

◆26班： 兵庫県内の里山里海は自然が豊かだがその自然を活用できていないことが課題である。

“ひょうごの里山里海を守り育てる”のために、SNSによりいろんな人と繋がることで仲間を増やし、自然を活用した活動をすることで兵庫県内の里山里海を活性化すると決めた。

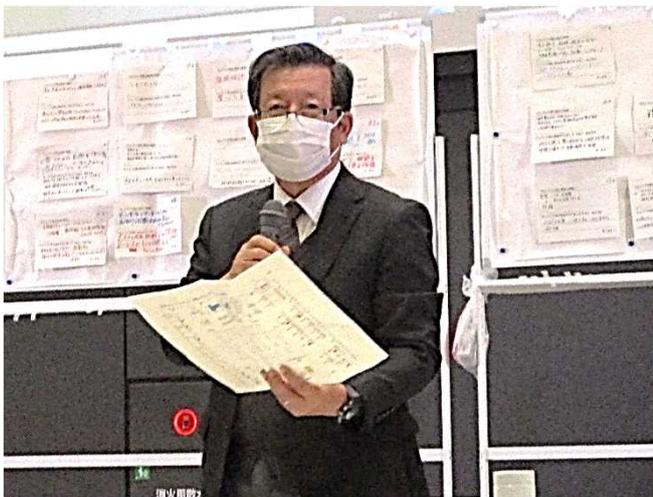
◆28班： 山の課題と海の課題に分けて考えた。

山の課題：竹の繁殖拡大、ボランティア人材の高齢化、耕作放棄地の増加

海の課題：漁獲量の減少、マイクロプラスチックごみが多い、海洋問題の情報が少ない
ごみのポイ捨てが多い

“ひょうごの里山里海を守り育てる”のために、①他人事だと思わず自分自身の問題として取り組む、②SNS、プラットフォームの作成による情報発信を行う、③ごみ拾い大会やワークショップを企画・参加する、と決めた。

(3) 講評 総合コーディネーター 中瀬勲（兵庫県立人と自然の博物館 館長／兵庫県立淡路島観音園芸学校 学長）



今回のテーマは「里山里海」だが、一言で里山里海といっても、大阪の淀川の河口では富栄養化が進んでいるが、紀淡海峡等では貧栄養化で窒素、リン等が全然足りてない。

「海」という広義の捉え方ではなく、淡路島の海はどうなっているのか、明石海峡ではどうなっているのかと、いろんな地域ごとに細かく調べてもらえるといろんな発見がある。

「里山里海」をネット検索すると横浜の（一社）里海イニシアティブが出てくる。「里山里海」という言葉について、里山と里海がどう関係するのも考えてもらったら面白いことが出来るのではないかな。

本日の発表の中で「発信」という言葉がたくさんあった。5班は「継承」7班は「地域文化」、それから多くの班が「SNSで繋がる」を挙げていた。特に14班は「自然を使う文化」を挙げていた。私の時代は必然的に自然を使って遊んでいた。高齢者からの知恵をぜひ継承して頂き、それと若い方々のハイテクノロジーを掛け合わせてもらえるといいのではないかな。「ヤギを飼う」という意見も出ていた。飼われているヤギも「幸せだった」と言ってくれるような飼い方をしてもらいたい。16班は「儲からない」と言っていた。実は儲かります。ご帰宅されてから「ESG投資」を検索して欲しい。環境に優しくない企業には費用を融資しない、環境に優しい事をする企業を皆で育てていく流れになってきている。

最後に「地域理解」。地域をどう理解するのか。自然もそう、環境もそう、文化もそう、早く地域のことを理解して、それを皆で継承しよう。情報を発信するためには発信するための「情報」が必要。その「情報」を見つけるのは皆さんです。「発信」や「連携」とよく言うが、その一番源になる自分たちの地域にはどんな魅力があるのか、それを今のうちに発掘し、伝えていって欲しい。ひょうご五国の自然をそれぞれ発掘、発信して欲しい。

本日のグループディスカッションで出たたくさんの「キーワード」を今後の皆さんの活動でぜひ活かして欲しい。

7 グロージング

挨拶（遠藤 英二 兵庫県環境部長）

環境問題は多岐に渡る。今テレビを見ても「脱炭素」、「生物多様性」、「海洋プラスチックごみ」、「資源循環」と様々な問題はあるが、その環境問題に通じるところは「持続可能性」。我々の大切な資源を次の世代に継承するためにどうすればいいのかということになる。

そのために皆さんにこうやってお集りいただき知恵を出し合っているが、この活動自体も本日お集まりの皆さまだけでは全然足りない。先ほどの発表にもあったがSNSを使ってどんどん発信し、多くの人の共感を得て仲間を増やして欲しい。このコロナ禍で人との繋がりがありがたいなと感じているのではないだろうか。

コロナでも「危機感」があったと思うが環境問題も同じで正しく恐れて、多くの人に「危機感」を持ってもらいたい。そのためには温暖化で氷が溶けていく映像など映像の力も重要。ぜひ先ほどのSNSの発信ではこういった映像も活用して欲しい。

最後になるが、この場をお借りしてこのフォーラムを作り上げてくれた学生企画委員の皆さんに感謝申し上げます。

また、総合コーディネーターの中瀬館長、グループディスカッションコーディネーターの嶽山先生、ありがとうございました。



Ⅲ 学生企画委員の紹介

1 学生企画委員一覧

第3回ひょうごユースecoフォーラムに企画段階から参画し、若い力でフォーラムを盛り上げてくれた10名の学生企画委員を紹介します。コロナ禍の中、オンライン会議等を通して様々なアイデアを出してくれた学生たちの真摯かつ積極的な取り組みがなければフォーラムの成功はありませんでした。学生企画委員の皆さんにこの場を借りてお礼申し上げます。



- | | | |
|-------|---------------|------------------------------------|
| 今岡 紗碧 | 県立兵庫工業高等学校 2年 | 【役割】受付及びポスター展示紹介、【担当企画】おうちで育てる観葉植物 |
| 前中 夕奈 | 県立兵庫工業高等学校 2年 | 【役割】ポスターイラスト作成、【担当企画】おうちで育てる観葉植物 |
| 駒倉 璃弥 | 県立農業高等学校 2年 | 【役割】総合司会、【担当企画】ごみから作るエコツリー |
| 小原 樹聖 | 県立農業高等学校 2年 | 【役割】受付、【担当企画】ごみから作るエコツリー |
| 井住 啓大 | 滝川高等学校 2年 | 【役割】受付、【担当企画】ごみから作るエコツリー |
| 神岡 宏輔 | 滝川高等学校 2年 | 【役割】受付、【担当企画】ごみから作るエコツリー |
| 藤居 晃斗 | 吉備国際大学 2年 | 【役割】受付、【担当企画】ごみから作るエコツリー |
| 中村 真人 | 吉備国際大学 2年 | 【役割】受付、【担当企画】ごみから作るエコツリー |
| 辻本 楓 | 甲南女子大学 3年 | 【役割】ポスター展示紹介、【担当企画】おうちで育てる観葉植物 |
| 塩濱 聡子 | 甲南女子大学 3年 | 【役割】総合司会、【担当企画】おうちで育てる観葉植物 |

※学生企画「リユースショップの活用法」は、10名全員で担当

2 学生企画委員感想



私は、今回初めて「ひょうごユースecoフォーラム」に参加しました。最初は他校の生徒や大学生と一緒に会場運営やエコについて調べることに不安がありましたが、皆で協力し学生企画会議などをしていくことでひとつのイベントを作り上げることが出来ました。

私は、中学生から今まで放送部に所属しており裏方で仕事をするこの大変さや楽しさを知っていたので、学校の先生からやってみないか聞かれた時に参加してみたいと思い、参加しました。

今回イベントを運営するうえで大事にしていたことがあります。それは参加してくださった方々に楽しんで貰うことはもちろん、色々な情報交換のいい機会を作れるようなイベントを作り上げることです。

初めての参加でしたがエコのことはもちろん、臨機応変に対応することの大変さなどを学ぶことが出来ました。この貴重な体験を今後の高校生活に活かしていきたいと思います。また、この様な機会があれば是非参加したいです。

＜県立兵庫工業高等学校 2年 今岡 紗碧＞



私は今回、第3回ひょうごユースecoフォーラムに参加させていただきました。残念ながら本番には所用のため参加することができませんでした。ですが本番までの準備にあたって学生企画委員の皆さんと協力させていただいたことと、会場の様子のYouTube配信を拝見した感想を述べようと思います。

第3回ひょうごユースecoフォーラムのポスターイラスト作成を担当しました。テーマは里山、里海ということで、自然環境について想像したものを絵にしていこうと考えていました。この絵を見た人に「あ、環境問題がテーマなのかな」と伝わるように作成しました。本番には参加できませんでしたが、大勢の方々にポスターを見ていただいて、皆さんがつけていらした名札にもイラストを背景にさせていただいて、本当に貴重な経験ができました。

今回のYouTube配信を見させていただいて、ほんとうなら今頃この壇上に立って会場の皆さんに挨拶をしていたんだろうと少し寂しい気持ちも抱きながら最後まで拝見しました。今まで知らなかった兵庫県での活動や研究を知ってもっと興味深くなりました。

今までリモート会議から始まり、ついにリモートではなくお互い面と向かって会議を開いて下さった方々や協力し合ってきた学生企画委員の皆さんには本当に感謝の気持ちとお疲れ様でしたと声を掛けたいです。

今回の経験を得て今後も大きく影響を受けることとなると思うので、大事にしていきたいです。本当にありがとうございました。

＜県立兵庫工業高等学校 2年 前中 夕奈＞



コロナ禍でのイベント開催のため、集まって会議を行うことが出来ずほとんどが不慣れなオンラインを活用した会議だったため、上手く連携を取ることが出来るか、イベントを成功させることが出来るか不安でした。

学生企画発表の準備を行おうにも住んでいる地域がバラバラのため、集まるのが難しく、その上、会議のほとんどがオンラインなので会議で集まった機会に準備を行うことが出来なかったため、学生企画発表が完成するか不安を感じていましたが、各々が出来たことをしたことで、完成させることが出来て良かったです。

また、このようなイベントに運営側として参加したことが無く、それに加えて司会を担当したのでイベント開催日の前日から緊張していました。当日のリハーサル後、さらに緊張してしまいましたが、県職員の方に励ましてもらい嬉しかったです。イベントが始まり、最初は心臓の鼓動がハッキリ聞こえて来るほど緊張していましたが、気がついたら脈拍が少なくなり、緊張せずに司会を行うことが出来ました。

大勢の人の前で喋ることが苦手なのでこれを経験の一つとして、克服していきたいと思いました。

最後に、集まるのが困難な状況下で学生企画を完成させ、経験したことの無いイベントの運営側の役割をこなし、今回のイベントを無事終了できたことが嬉しく、貴重な経験になりました。

<県立農業業高等学校 2年 駒倉 璃弥>



学生企画委員として活動して感じた事は、主体的に動く事の難しさでした。自分は今までこういった大きな場に出たことがなく、あまり主体的に動くことはありませんでした。自分はどこかそんな他人任せな部分があり、誰かが始めたら同じようについていくというようにしてしまっていて、そこが自分にとっての短所でした。ひょうごユースecoフォーラムの活動が本格的に始まると、そんなことを言っている時間も無くなり、自分から動かないといけないという場面が多くありました。そういったことを繰り返すうちに、自分から動くということが少しできるようになりました。この力は本番でも発揮することが出来、手が空いていれば自分から動くということができるようになりました。これは自分にとって本当に大きな成長となりました。自分はこの活動を始める前と比べ、本当に変わったと思います。次回の開催の際も自分と同じような人に参加してもらい、成長して欲しいと思います。

最後になりますが、ひょうごユースecoフォーラムを通して沢山のサポートをしてくださり、ありがとうございました。

<県立農業高等学校 2年 小原 樹聖>



僕は今回のひょうごユースecoフォーラムを通して色々な事を知り、学び、そして経験することができました。中でも学生企画委員として活動したことが自分にとって一番いい経験になったなと感じています。

僕のグループの学生企画はごみで作るエコツリーでした。海から流れてくるごみを“ツリー”として表現することで来場者の皆さんにごみの多さや種類を伝えることができたと思います。

グループディスカッションでは全くの初対面の人との話し合いで初めは凄く緊張していましたが、親切な人ばかりですぐ馴染むことができました。

ディスカッションの本題であるひょうごの里山里海の課題としてやはりごみの多さなどが挙がっていました。こうした問題を解決するにはまず“知ってもらおう”事が大切だということで僕の班はSNSで情報発信するという案になりました。なので今後自分の学校から環境問題について何か発信できればいいなと思っています。

最後に、今回の学生企画委員で得た経験を今後活かされるように頑張っていきたいです。

<滝川高等学校 2年 井住 啓大>



僕は初参加だったひょうごユースecoフォーラムにおいて、1番印象に残ったことは、グループディスカッションです。僕は今まで生徒たちとはグループディスカッションを何度かしたことはありますが、大人たちに囲まれてするのは初めてだったからです。このディスカッションを通して分かったことは、色々な人たちがそれぞれ違う形で環境活動に参加しているということです。環境活動は、多種多様にわたっているのだなと改めて思いました。

次に、僕は何かを企画する側にまわってするのも初めてでした。学生企画自体は、淡路島でのゴミ拾いに参加することが出来なかったのは残念でしたが、最終的に僕も学生企画に貢献することができ、学生企画も大成功することができたので良かったです。また、とある企画に参加することもいいですが、自分達で何かを企画することも楽しかったし、やりがいも感じました。

最後に、僕はひょうごユースecoフォーラムに学生企画委員として参加して良かったと思いました。これを通して、今までよりもっと環境問題に関心を持つことができました。これからは、環境活動に積極的に参加していきたいと思いました。

<滝川高等学校 2年 神岡 宏輔>



今回、第3回ひょうごユースecoフォーラムの学生企画委員を、現在所属している狩猟部の先生から声をかけていただき担当することになりました。もともとは、特にエコに関心が深かったというわけではないのですが、淡路島に来てから自然環境や野生動物にかかわることが多くなり、よい機会だと思い参加させていただきました。

企画委員の仕事はもちろん、フォーラムの参加も初めての事だったので非常に良い経験になりました。

企画委員の仕事は、コロナの影響でオンラインでの会議が多く、個人的にはなかなか思うようにいかないことがあったり、県庁の担当の方にはいろいろとご迷惑をおかけしてしまいました。本番ではある程度の形にはなりましたが、ほかの企画委員の子のお手伝いや協力あってのものです。

フォーラムでは、環境問題への見聞を広げることができたし、今の世界が自分の思っていたよりずっと問題解決の未来に向けて進んでいることを思い知らされました。

このフォーラムの企画委員をした経験は、うまくいかなかったことも含め貴重なものでした。この企画に参加させていただいて本当に良かったと思います。

<吉備国際大学 2年 藤居 晃斗>



私はこのフォーラムで学生企画のひとつの部門でリーダーをさせていただく機会を頂きました。ひょうごユースecoフォーラムは兵庫の環境をより良くするための会議ではありましたが、私たち学生企画にとって、他学校・他学年であったり、様々な学生企画委員が集まって力を合わせてひとつのものを完成させることは滅多にないことであり、素晴らしい経験をさせていただいたと感じています。

学生企画を素晴らしいものにすることはもちろんですが1番の目標は私たち自身が楽しむことであると思っていました。一緒に協力してきた企画委員と今日まで楽しかったねと言合える学生企画に出来たと思っています。

この学生企画は、自分の案が採用されたりなど沢山の喜びや苦労がありました。リーダーになった分、日程調整や本番準備のための場所の確保など普段の私じゃやらないようなこともしました。ですが、どれもとてもいい経験になったなと感じています。

これからもまたこのような活動があれば積極的に参加していきたいなと感じました。

<甲南女子大学 3年 辻本 楓>



6月下旬に開催された第3回ひょうごユースecoフォーラム企画会議。コロナ禍ということもあり、最初の顔合わせは画面越しでした。

最初の議題は「フォーラムの全体テーマ決め」でした。が、ここである事に気付かされました。今まで里山にまつわる活動には携わってきましたが、フィールドの違う海の問題は全く知らなかったのです。

意外と知らなかった地元の自然、兵庫が抱える環境問題。普段と違う角度から話し合いを重ねる中で、フォーラムのテーマを決める以上に兵庫県の環境ってこんな事になってるの!？と、衝撃を受けたのを覚えています。

そこから約半年、集まらない中でも様々な方に支えていただき、各々が声をかけあって走り抜けました。

フォーラム当日は多くの方々にご参加頂けたことを嬉しく思うと同時に、司会担当ということもあり緊張していました。各団体様の展示物や自分たちと同年代の方が行っている活動、「守る」より「作る」という環境保護活動など別の視点からのアプローチが多く、これは自分たちの部活にも取り入れられるのでは?と、自らの活動を見直してみるきっかけになったものも多くありました。

会場の熱気が最高潮に達したのがグループディスカッション。老若男女問わず世代を超えて環境問題について話し合いました。解決策を模索する中でまた見えてきた問題、その問題をいかにして解決するのかという話し合い。その中で見えてきた環境問題解決への第一歩。大切なのは、こうやって一人ひとりが問題に対して真剣に対峙する事。その事に気がついたのが、今回のフォーラムで得た一番の学びなのではないかと思うのです。

イレギュラーな状況下での開催となりましたが、嶽山先生や兵庫県環境政策課の皆様を始めとする多くの方にご支援頂き、フォーラムの開催に至りました。この場をお借りしてお礼申し上げます、ありがとうございました。

<甲南女子大学 3年 塩濱 聡子>



第3回 ひょうごニュースecoフォーラム 開催報告書
ひょうごの里山里海を守り育てる ～コロナ禍の先にある暮らし方～（令和3年12月22日）

編集発行

兵庫県 農政環境部 環境創造局 環境政策課 活動支援班

〒650-8567 神戸市中央区下山手通5丁目10-1 電話: 078-362-9895

FAX: 078-362-4024

電子メール: kankyouseisakuka@pref.hyogo.lg.jp